

## 第2期様似町まち・ひと・しごと創生総合戦略

様似町役場企画調整課

### はじめに

様似町は、北海道の南東、日高管内の東部に位置し、西は浦河町に、東はえりも町に、北東には日高山脈、南西は太平洋に臨んでいます。総面積は、364.30km<sup>2</sup>、東西に20.2km、南北20.6kmで、太平洋に浮かぶ親子岩をはじめ、変化に富んだ美しい海岸線は24.2kmあります。

まちのほとんどが丘陵地帯、中起伏山地からなっており、河川の流域沿いと太平洋岸沿いに集落が形成されています。町の中央部にアポイ岳があり、高山植物群落が特別天然記念物に指定されるなど植物学上貴重な存在となっているだけでなく、地質学的にも貴重なかんらん岩体からなっており、アポイ岳を含む町一帯が「アポイ岳ユネスコ世界ジオパーク」として、平成27（2015）年11月にユネスコ世界ジオパークに認定されています。

また、令和6（2024）年6月には、様似町のシンボルであるアポイ岳を含む日高山脈<sup>えりも</sup>一帯とその周辺地域が新たに「日高山脈襟裳十勝国立公園」に認定され、その総面積は24万5,668haとなり、国立公園としては日本最大の面積を誇ります。



本町の産業は、第一次産業や各種産業など多面的構造で成り立っており、日高昆布や真ツブ、マツカワや、夏秋採りイチゴ「すずあかね」などのブランド化に取り組んでいます。また、昆布漁が盛んに行われ、昆布干し作業は様似町の夏の風物詩となっています。

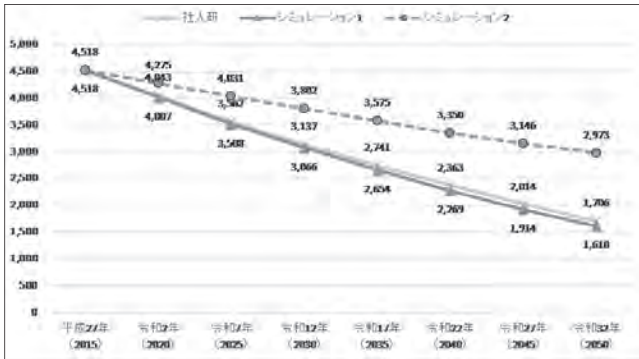


### 人口の推移

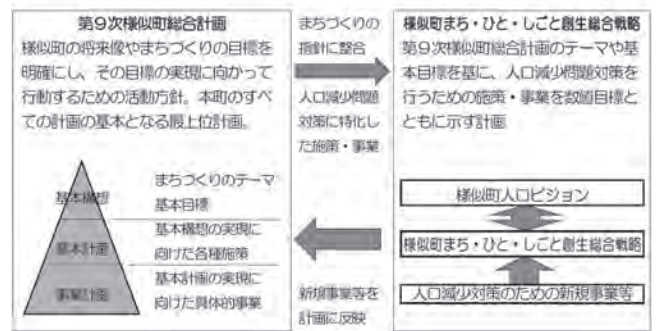
本町の総人口は、昭和55（1980）年の7,986人から一貫して減少傾向となっており、平成27（2015）年時点では、3,997人となっています。国立社会保障・人口問題研究所により出された最新の人口推計によると令和32（2050）年の様似町の総人口は1,706人になると予想されており、今後も減少傾向が続くと推計されています。特に、15歳～29歳の若い世代が減少傾向にあり、その原因として、若年層は男性が多く、女性が少ない傾向にあり、結果として結婚・出産の機会が減少し、少子化が加速していることが考えられます。

また、高校卒業を機に、進学や就職のために町外へ出ていく若者が多く、そのまま戻ってこないことも原因として挙げられています。

様似町の人口推計



総合計画との関係性



本町における人口の現状を分析し、今後目指すべき将来の方向性と展望を示す「様似町まち・ひと・しごと創生人口ビジョン」では、第9次様似町総合計画のテーマである「～夢を絆を 笑顔でつなぐ まちづくり～」を目指し、人口減少の進行緩和対策に取り組むとともに、人口減少下においても心豊かに幸せに暮らし続けられるよう取り組みを推進していくこととしています。

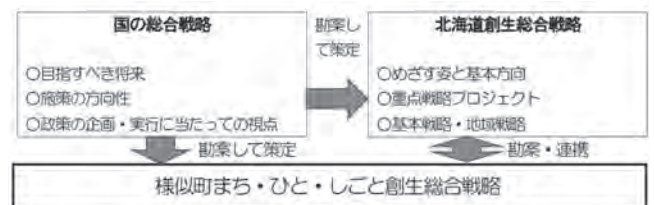
第9次様似町総合計画においては、令和12（2030）年度の目標人口を3,100人と設定しており、若者世代の就労と、結婚・出産・子育ての希望の実現や観光資源の活用、若者等の定住支援、さらにはコンパクトなまちづくりなどに努め、令和22（2040）年時点での人口を、2,200人を下限におきつつ、上記のような各種施策を進めることで、国の長期ビジョン等で予想される3,300人に近づけていくことを目標としています。

(2) 国・北海道の総合戦略との関係

様似町まち・ひと・しごと創生総合戦略は、国の総合戦略で示されている基本方針や今後の施策の方向を勘案し策定しています。

また、北海道が策定する総合戦略「北海道創生総合戦略」を勘案して策定するとともに、様似町まち・ひと・しごと創生総合戦略における施策・事業の実施については、「北海道創生総合戦略」で示される施策・事業と連携を図ります。

国・道の戦略との関係性



様似町まち・ひと・しごと創生総合戦略の位置付け

(1) 第9次様似町総合計画との関係

様似町まち・ひと・しごと創生総合戦略では、第9次様似町総合計画に示されているまちづくりのテーマや基本目標を基に、人口減少対策に特化した施策・事業を数値目標とともに示しています。

町民の意識や意向、各種団体などの意見や庁内各課における施策・事業の評価を基に、既存事業の見直しや新規事業を立案し、様似町まち・ひと・しごと創生総合戦略に盛り込むとともに、第9次様似町総合計画に反映します。

基本目標と具体的な施策

【基本目標1】 稼ぐ地域をつくとともに、安心して働けるようにする

基幹産業である水産業・農業の振興をはじめ、地域の優位性でもある豊かな自然などを生かした産業振興を図り、担い手の働く場の増加、人口流出の抑制や新たな企業の誘致を図ります。

- (1) 農業振興対策の推進
- (2) 林業振興対策の推進
- (3) 水産業振興対策の推進

- (4) 商業振興対策の推進
- (5) 工業振興対策の推進

### 【基本目標2】 地域とのつながりを築き、地域への新しいひとの流れをつくる

ユネスコ世界ジオパークに認定された「アポイ岳ユネスコ世界ジオパーク」を積極的に発信し、観光客や交流人口・関係人口の増加を図り、移住から定住へとつながる新しいひとの流れを創出します。

- (1) 観光振興対策の推進
- (2) 移住・交流の推進

### 【基本目標3】 結婚・出産・子育ての希望をかなえる

子育て世代や子どもたちにとって、住みよいまちづくりを進め、結婚・妊娠・出産・子育てにおける切れ目のない支援を行い、安心して子どもを産み育てられる環境作りを進めます。

- (1) 子育て支援の推進
- (2) 母子保健の推進
- (3) 児童福祉の推進
- (4) 幼児教育・保育の推進
- (5) 義務教育の推進

### 【基本目標4】 ひとが集う、安心して暮らすことができる魅力的な地域をつくる

- (1) まちなみの整備
- (2) 上水道の整備
- (3) 消防・救急体制の整備
- (4) 地域医療体制の維持
- (5) 地域福祉の推進
- (6) 社会教育の推進
- (7) 文化財の保護・保存と活用
- (8) スポーツの推進
- (9) 地域公共交通等の確保・充実
- (10) 情報通信基盤の整備

## 取組事例 1

### 【アポイ岳ジオパーク推進事業】

本町は「アポイ岳ジオパーク」として平成20（2008）年に日本ジオパーク、平成27（2015）年にはユネスコ世界ジオパークに認定され、令和元（2019）年に4年に一度の再審査を行い、認定されました。

ジオパークは、“大地の公園”を意味し、科学的に貴重な地質遺産などを保全し、それを教育や観光に活用することで、持続的な地域社会を構成するユネスコ（国際連合教育科学文化機関）のプログラムであり、地質・自然・文化遺産の保全、教育・観光の振興など多岐にわたる施策により成り立つプログラムです。

本町では、ジオパークの推進母体であるジオパーク推進協議会与連携し、ジオパークや地域の魅力の再発見を目的として「アポイカレッジ」などの町民向け講座や小中学校で行われている「ふるさとアポイ学」を実施しています。ふるさとアポイ学では、本町の中学生が日本ジオパーク全国大会に参加し、来場者へ向けにポスター発表などを行っています。

観光においては、ジオツアーとして本町の産業や歴史、自然等によりプログラムを盛り込んだツアーを実施するなど、ユネスコ世界ジオパーク加盟地域として、国内外のジオパークとのさらなる連携を図り、ジオパークの質の維持向上に努めています。



全国大会でのポスター発表の様子



## 取組事例 2

### 【様似型スクールランチ事業】

本町には給食施設がなく、以前は児童・生徒に弁当を持参してもらい、町はミルク給食のみを行っていました。

保護者からは長年、完全給食を希望する要望が寄せられていましたが、本町の少子化傾向や財政状況を考えると、給食センターを新設することは難しく、実現に至っていない状況でした。

しかし、「何らかの形で給食を実現したい」と様々な検討を重ねた結果、令和3（2021）年9月より、民間業者の配食サービスを活用した「様似型スクールランチ」を実施しています。

スクールランチにより、管理栄養士が作成した日替わりメニューを、帯広市にある工場から、温度を保ったまま学校へ運ぶことで、子どもたちに温かい食事を提供することが可能となりました。

提供されるお米は、様似町産の特別栽培米「アポイ米」を使用しており、メニューの中には、地場産食材を活用したものも提供されています。

現在は、食物アレルギーを持つ児童・生徒に対し、代替食の提供による対応が可能となっており、令和6（2024）年度からは無償化することで、家庭での経済的負担の軽減を図るとともに、全児童・生徒が同じ食事を摂ることを通して食育を進めています。



スクールランチの様子

## 取組事例 3

### 【ふるさと様似応援寄附金事業】

総合戦略の基本目標2「地域とのつながりを築き、地域への新しいひとの流れをつくる」に対する取り組みの一環として、平成27（2015）年度より「ふるさと様似応援寄附金」事業を開始し、令和5（2023）年度は26,497件、3億9,921万5千円のご寄附をいただいております。町財政にとって貴重な財源となっています。

ふるさと様似応援寄附金では、海産物を中心とした返礼品の送付を通じて、町の知名度向上や魅力を発信し、様似ファン（関係人口）の増加を図るとともに、近年は、アポイ岳ジオパークや日高山脈襟裳十勝国立公園の認定を機に、ガイドツアーなどの体験型返礼品の開発にも力を入れており、実際に地域へ足を運んでもらえるようなきっかけづくりにも取り組んでいます。

### おわりに

本町では、総合計画や総合戦略に基づき、町長が掲げる「町民がしあわせと感じられるまちづくり」の実現に向けて、産業振興施策、観光振興施策、地域医療体制の充実など、様々な分野での支援や対策に取り組んでいます。

総合戦略については、現状と今後の取り組みについて、評価・検証を毎年度行い、全庁的に課題や推進状況を共有することで、横断的な取り組みを進めておりますが、未だ人口減少や少子高齢化に歯止めをかけることができていない状況です。

今後は、人口減少や少子高齢化、産業の衰退など、本町を取り巻く情勢はより厳しいものになると予想されており、より一層、各種支援や対策などに尽力するとともに、アポイ岳ジオパークや、日高山脈襟裳十勝国立公園の認定など、地域の魅力を発信するとともに、町民と協働して、さらなる地域活性化へ取り組んでまいります。